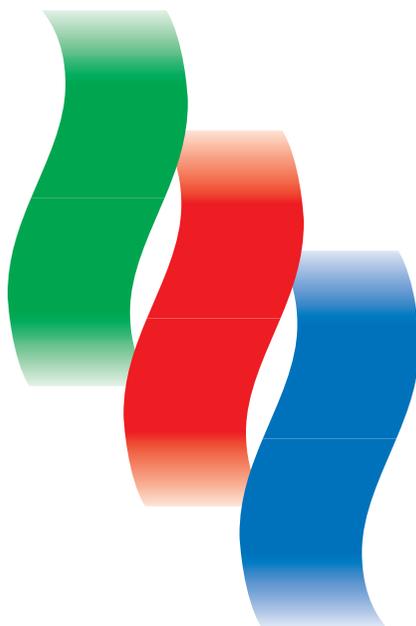


城西大学語学教育センター
研究年報

No. 14



2021年



城西大学

城西大学語学教育センター
研究年報

第 14 号

城西大学

城西大学語学教育センター研究年報 第14号

目 次

報 告 コロナ禍における授業（2）

筆記ランゲージングを取り入れた教室実践の試み …………… 城西大学語学教育センター 石川 正子 1 宮城教育大学大学院教育学研究科 鈴木 渉	
コロナ下のハイフレックス授業実践報告 —初年次日本語クラスを中心に— …………… 神村 和美 12	
コロナ禍での英語教育： インストラクショナル・デザインを取り入れて ハイフレックス授業にたどり着くまで …………… 鬼頭 和也 17	
2021年度 コロナ禍における英語授業実践報告 …………… 石川 英司 24	

論 文

闘争の炎と燃え尽きぬもの： ブレイクとニーチェをつなぐものとしてのイエイツのヤコブ・ペーメの受容について …………… 伊東 裕起 29	
少女雑誌 <i>Atalanta</i> と読者の挑戦 …………… 牟田有紀子 51	

研究ノート

エドワード・ハーバート『自叙伝』（翻訳） —（4）「大陸での武者修行，そして嫉妬に狂う貴顕紳士による襲撃事件」— …… 山根 正弘 69	
アーサー・シモンズ『象徴主義者の文学思潮』について—試訳と注釈（V）— ステファヌ・マルルメ／象徴主義者としてのユイスマンス …………… 小堀 隆司 112	

The Language Education Center of JOSAI UNIVERSITY

BULLETIN

No. 14

CONTENTS

Reports on Some Styles of Classes under the COVID-19 Calamity (2)

An exploratory Study on Written Languaging in University English Classroom	Masako Ishikawa Wataru Suzuki	1
A Report on Hybrid-Flexible Class Practice under Covid19 : Focusing on Freshmen-Oriented First-Year Japanese Courses ...	Kazumi Kamimura	12
English Education during COVID-19 : Implementing Instructional Design into Online Classes and Applying it to Hybrid-Flexible Classes	Kazuya Kito	17
A Report on English Classes under the COVID-19 Pandemic in the 2021 Academic Year	Eiji Ishikawa	24

Articles

The Flame of Conflict and the Unquenchable : On Yeats's Reception of Jacob Boehme as a Link between Blake and Nietzsche	Yuki Ito	29
The Challenges of the <i>Atalanta</i> and its Readers	Yukiko Muta	51

Research Note

<i>The Autobiography of Edward, Lord Herbert of Cherbury</i> Translated into Japanese: (4) "His Quasi-Grand European Tour, and an Attack on him by a Gentleman Suspecting to Be Cuckolded"	Masahiro Yamane	69
On <i>The Symbolist Movement in Literature</i> by Arthur Symons: Translations, and Explanatory Notes (V) Stéphane Mallarmé / Huysmans as a Symbolist	Ryuji Kobori	112

城西大学語学教育センター研究年報

既刊号総目次

創刊号 (2005年)

- 創刊号を祝して 水田 宗子
 「語学教育センター研究年報」の発刊に寄せて 田中 昭
 研究年報の創刊を祝して 森田 昌幸
- 〔論文〕
- 移動動詞群の意味領域と体系結合(1) 平澤 洋一
 Listening Methodology : Top-Down vs. Bottom-Up Nobuyuki Shoji
 米国高等教育機関におけるアフターマティブ・アクションについて
 —— ミシガン大学, 同ロースクールの入学者選考に関する最高裁判決 ——
 日吉 和子
 日本語複合動詞「～し出す」の統語的・意味的特性について 鎌田精三郎
- * * *
- 語学教育センターの設立について 越坂部則道

第2号 (2006年)

- 〔論文〕
- Teaching in English Only. . . Begging to Differ : in Search of Cultural &
 Communicative Competence Development Nobuyuki Shoji
 空間的状况モデル構築における
 音韻符号化が果たす役割 鈴木 明夫, 奥野 郁子
 日本語表現における構成の種類 平澤 洋一
 二条家三代集の「詞書」の語彙について 若林 俊英

第3号 (2009年)

- 〔Articles〕
- TOEIC English and a Solution to the Difficulties for EFL Learners,
 Explored in View of Authenticity & Cohesion of English Nobuyuki Shoji
 Subvocalization of Japanese Students
 when Listening to English Akio Suzuki, Ikuko Okuno

第4号 (2010年)

- 〔Articles〕
- Pair Re-Readings With Mixed and Similar Ability Pairs Todd Armstrong
 The Nature of Reading Ability and the Assessment of it Masako Ishikawa

A Report on Vocabulary Quizzes and Learning Strategies of Students	Minako Nakamura
ESP and Learners' Beliefs	Tomokazu Nakayama
米国大学入学者選考におけるアフターマティブ・アクション・プログラム 25年期限の実現可能性	日吉 和子
Identifying an Effective Form of Feedback for the Japanese EFL Classroom	Keith Martin
Significance of Spiritual Intelligence in Global Education	Hidemori Yasuyama

第5号 (2011年)

[Articles]

Going Beyond Parroting : Testing 4 Competencies Using Criterion Referenced Testing in Oral English Classes	Todd Armstrong
Effects of Shadowing and Dictation on Listening Comprehension Ability of EFL Learners	Tomokazu Nakayama, Akira Iwata
TOEIC Listening Comprehension Test and the Qualities of Test Usefulness	Masako Ishikawa
A Report on Vocabulary Quizzes Concerning Derivatives and Collocations	Minako Nakamura
Designing a Listening/Speaking Unit to Improve Japanese Students' Listening Comprehension and Intelligibility	Keith Martin

第6号 (2012年)

[Articles]

Differences in Comprehension : Visual Stimulus vs. Auditory Stimulus	Tomokazu Nakayama, Akira Iwata
Learners' Perception toward Written Language in the Form of Metanotes	Masako Ishikawa
Improving Vocabulary Ability by Focusing on the Parts of Speech	Minako Nakamura
An Intensive Academic English Class : Using CLIL Concepts for False Beginners	Todd Armstrong
Language Policy and National Development: the Cases of Malaysia and Japan	Hidemori Yasuyama

第7号 (2013年)

[Articles]

Learners' Metanotes (Written Language) on Noticing Gaps	
---	--

and their L2 Proficiency	Masako Ishikawa
Using CLIL Principles Teaching Global Management to Low Proficient Learners	Todd Armstrong
再帰属訓練法は英語学習に対する自己効力感を 向上させるか	中山 誠一, 松沼 光泰
Interviewing Returnees to Inform Classroom SLA Research	Keith Martin

第8号 (2014年)

〔Articles〕

Do Learners Notice Recast?	Masako Ishikawa
潜時によりシャドーイングのパフォーマンスや聴解力を 予測できるか	中山 誠一
Using a Social Networking Platform to Design an Online Course for Limited English Proficiency Learners	Keith Martin

第9号 (2015年)

〔論文〕

フランス現代社会の諸問題について —— 2015年の二つのテロにいたるまでのフランスの社会状況 —— ...	越坂部則道
米国のミステリー小説で時代を読む	日吉 和子
幻想のアイランドより —— 詩人イエイツの場合 ——	小堀 隆司
チャールズ・ディケンズの『オリヴァー・トゥイスト』について	吉田 尚子
女性学の視座について —— 女性学が拓いた地平と今後の課題 ——	大橋 稔
English Journalの導入 —— 英語学習者の自律学習支援を目指して ——	石川 正子
	* * *
「詞書」からわかること	若林 俊英

第10号 (2017年)

〔論文〕

アール・スタンレー・ガードナーの 「ペリー・メイスン」作品における前書き	日吉 和子
トニ・モリスンが描く黒い肌の意味： 『神よ、あの子を守りたまえ』を中心に	大橋 稔
〔研究ノート〕 アーサー・シモンズ『象徴主義者の文学思潮』について —— 試訳、および解題と注釈（I）——	小堀 隆司

第11号 (2018年)

〔論文〕

英語圏における俳句の受容史の概観：

W. G. アストンからR. H. プライスまで……………伊東 裕起

少年は何を目指して成長するのか：アニメ映画を手がかりに……………大橋 稔

“転向者”の素描

——〈転向〉の時代におけるプロレタリア演劇の行方——……………神村 和美
アール・スタンレー・ガードナーの「ペリー・メイスン」作品における1949年以降の前書きの2つの動因……………日吉 和子
変容するプリンセス

——『小公女』と子ども向け映画作品による少女像の構築について………牟田有紀子

〔翻訳〕

エドワード・ハーバート『自叙伝』

——(1)「先祖と親兄弟の肖像そして誕生譚」——……………山根 正弘

〔研究ノート〕

アーサー・シモンズ『象徴主義者の文学思潮』について

——試訳と注釈(Ⅱ)——ジェラルド・ド・ネルヴァル……………小堀 隆司

第12号 (2019年)

〔論文〕

自転車とモダンガール

——世紀転換期イギリス少女雑誌に見る自立、競争、消費……………牟田有紀子

「武器」と「芸術」の国際語

——^{エスペラント}JPEUとプロレタリア・エスペラント運動——……………神村 和美

働き方改革とダイバーシティを考える

最近のテレビドラマを手がかりに……………大橋 稔

民族主義者か超人か：

W. B. イェイツのイスカリオテのユダ観とその変遷について……………伊東 裕起

〔研究ノート〕

エドワード・ハーバート『自叙伝』(翻訳)

——(2)「幼年期から思春期、そして通常教育に関する所見(前編)」——
……………山根 正弘

アーサー・シモンズ『象徴主義者の文学思潮』について

——試訳と注釈(Ⅲ)——ヴィリエ・ド・リラダン……………小堀 隆司

第13号 (2020年)

〔報告〕コロナ禍における授業

はじめに

2020年度の語学教育センター……………若林 俊英

2020年度オンライン授業を振り返って……………	大橋 稔
* * *	
日本近現代文学作品を用いた日本語授業の試み	
—オンラインによる日本語授業実践報告—……………	神村 和美
2020年度城西大学オンライン中国語授業の実施状況及び問題点……………	樊 穎
2020年度後期のハイブリッド授業についての覚書	
—資格英語IBを例に……………	牟田有紀子
2020年度オンライン授業実践報告：	
今後の英語教育を考える手がかりとして……………	大橋 稔
2020年度の授業を振り返って……………	若林 俊英
〔論文〕	
消えゆく波か流血か：北アイルランドの女性作家アリス・ミリガンの	
詩における死の表象と抒情性について……………	伊東 裕起
少女の中の少女を目指して——後期ヴィクトリア朝の少女雑誌における	
コンペティションの意義……………	牟田有紀子
〔研究ノート〕	
エドワード・ハーバート『自叙伝』（翻訳）	
——(3)「通常教育に関する所見（後編），そして遍歴の騎士時代」——	
……………	山根 正弘
アーサー・シモンズ『象徴主義者の文学思潮』について	
—試訳と注釈（Ⅳ）—	
アルチュール・ランボー／ポール・ヴェルレーヌ／ジュール・ラフォルグ	
……………	小堀 隆司

執筆者紹介（本号掲載順）

共著	石川正子	本学語学教育センター准教授
	鈴木渉	宮城教育大学大学院教育学研究科教授
	神村和美	本学語学教育センター准教授
	鬼頭和也	本学語学教育センター助教
	石川英司	本学語学教育センター助教
	伊東裕起	本学語学教育センター助教
	牟田有紀子	本学語学教育センター助教
	山根正弘	本学語学教育センター非常勤講師
	小堀隆司	本学語学教育センター教授

『城西大学語学教育センター研究年報』 投稿規程

『城西大学語学教育センター研究年報』への投稿は次の要領に基づいて行われることとする。

1. 投稿資格は原則として本学語学教育センター所属の専任教員、および非常勤講師に限る
(専任教員との共著者も可)。
2. 投稿原稿の内容は未公開のものとする。
3. 投稿原稿の種類は研究論文、研究ノート、翻訳の3種類を基本とする。
4. 投稿原稿の長さは和文20,000字、欧文8,000ワード以内を原則とする。
5. 和文の場合は欧文の表題、執筆者のローマ字表記を必要とする。
6. 図・表は合わせて10枚以内とする。
7. 原稿は原則としてパソコンで作成し、USBメモリーとプリントアウトしたものを編集委員に提出する。
8. 印刷の体裁は編集委員に一任するものとする。
9. 研究論文の場合は査読をへて編集委員会において掲載の可否を決定する。
10. 掲載された論文等の著作権はすべて城西大学語学教育センターに帰属する。また掲載された論文等はすべて大学のリポジトリ (JURA) にて公開する。
11. 締切りは9月末日とする。
12. 執筆者には抜き刷り30部を無料配布する。それ以上は執筆者の自己負担とする。

付則

この規程は平成22年4月1日より施行される。

* 平成28年11月18日 一部改正

* 平成29年4月19日 一部改正

編集委員

小堀隆司

石川正子

神村和美

城西大学語学教育センター研究年報 〈第14号〉

令和4年3月1日 発行

編集兼 城西大学語学教育センター
発行人 研究年報編集委員会
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL 049-271-7884

©代表者 藤野陽三
印刷所 (有)東京工芸社
TEL 049-285-4611(代)
